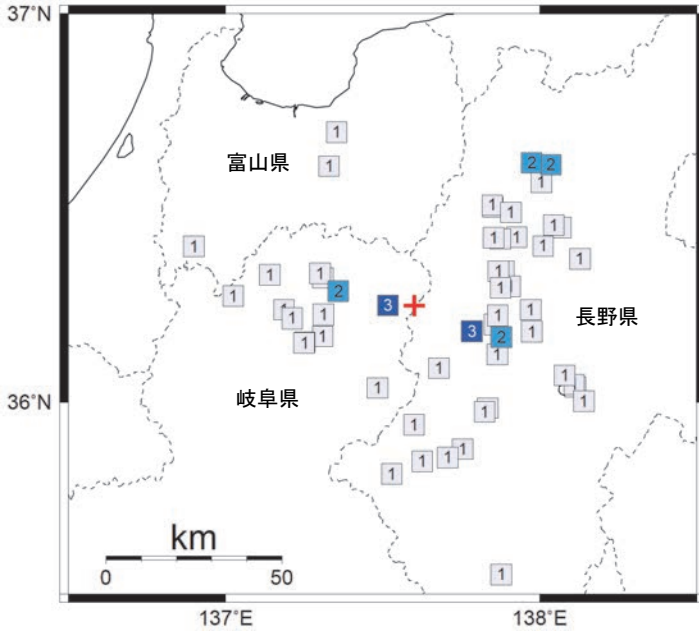
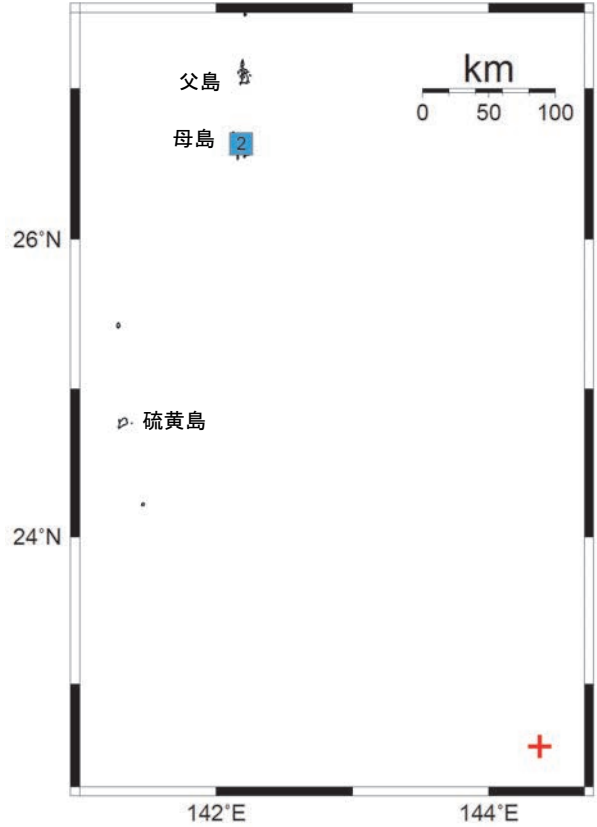


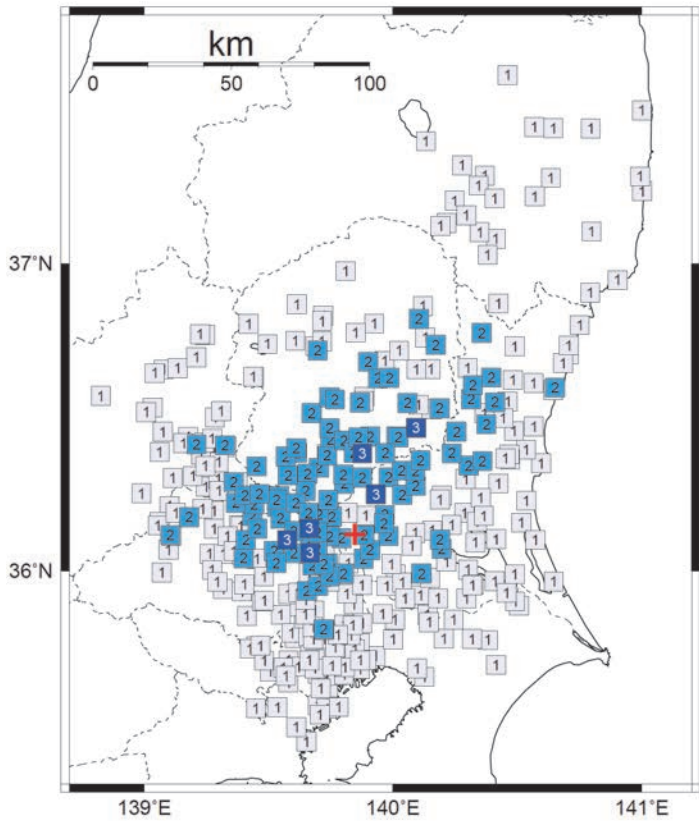
1 5月3日 15時26分 長野県中部
 (M3.9、深さ3km、最大震度3)
 ※岐阜県飛騨地方から長野県中部にかけての地震活動のうち、5月の最大規模の地震の震度分布を表示



2 5月3日 19時57分 硫黄島近海
 (M6.0、深さ107km、最大震度2)



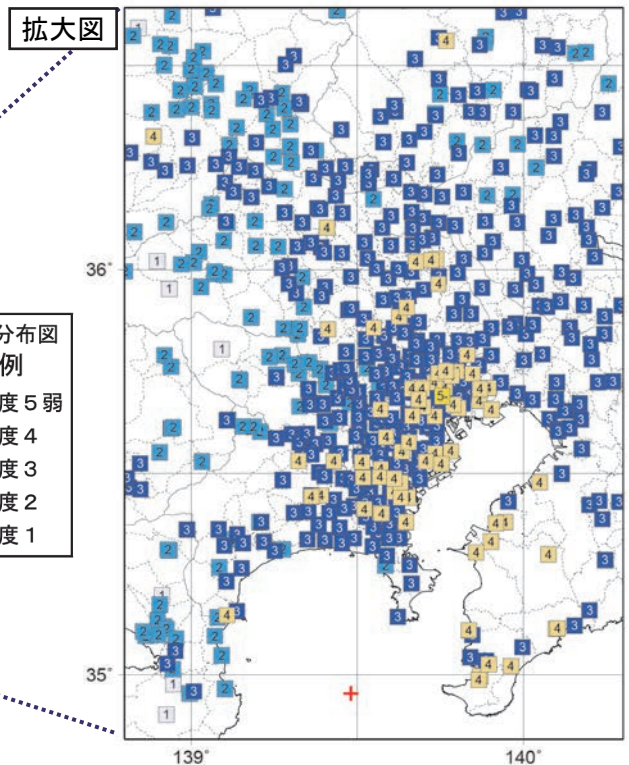
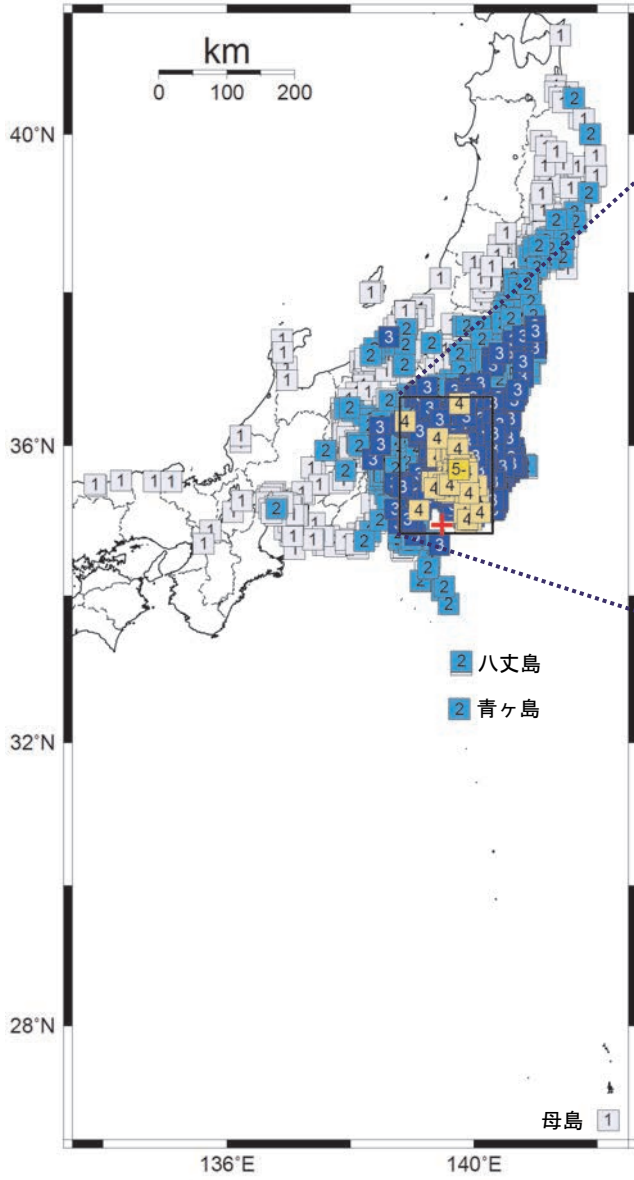
3 5月5日 05時02分 茨城県南部
 (M4.2、深さ49km、最大震度3)



震度分布図 凡例	
3	震度 3
2	震度 2
1	震度 1

図 3 - 1 震度分布図（各図の左上の数字は表 1、図 2 の番号に対応する。+印は震央を示す。）

4 5月5日 05時18分 伊豆大島近海
(M6.0、深さ156km、最大震度5弱)

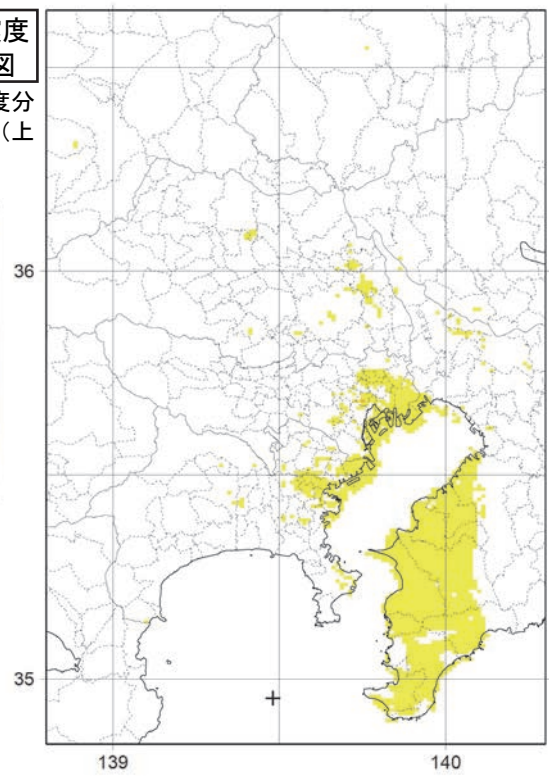


震度分布図
凡例
5 震度5弱
4 震度4
3 震度3
2 震度2
1 震度1

推計震度分布図

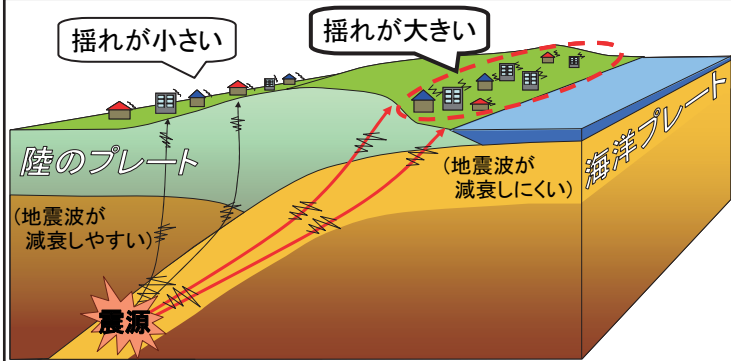
(表示範囲は震度分布図の拡大図(上図)に等しい)

推計震度分布図
凡例
震度7
震度6強
震度6弱
震度5強
震度5弱
震度4



<推計震度分布図について>
地震の際に観測される震度は、ごく近い場所でも地盤の違いなどにより1階級程度異なることがある。また、このほか震度を推計する際にも誤差が含まれるため、推計された震度と実際の震度が1階級程度ずれることがある。
このため、個々のメッシュの位置や震度の値ではなく、大きな震度の面的な広がり具合とその形状に着目して利用されたい。

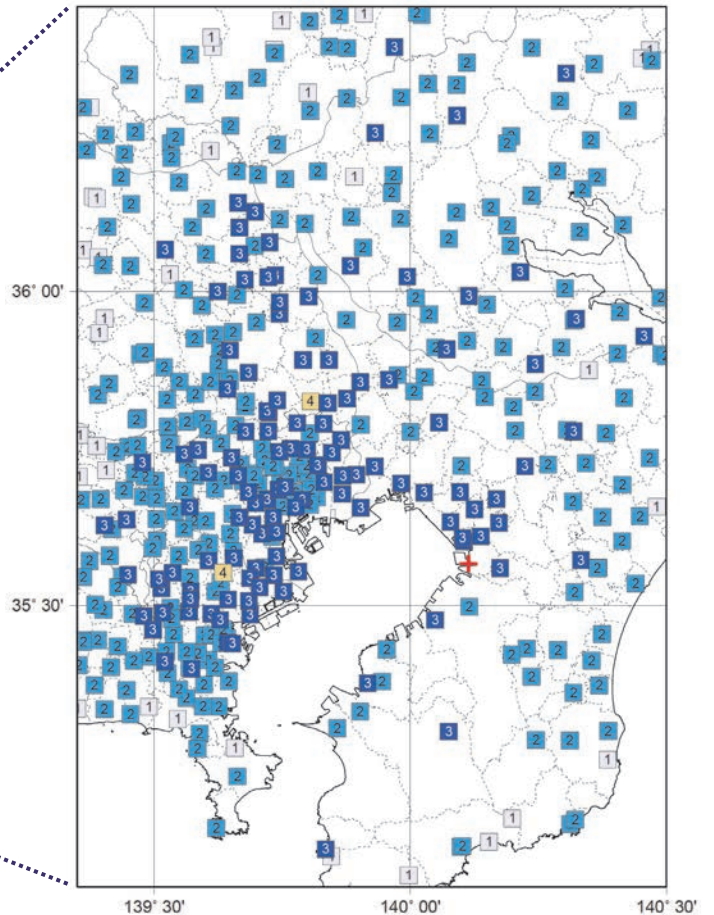
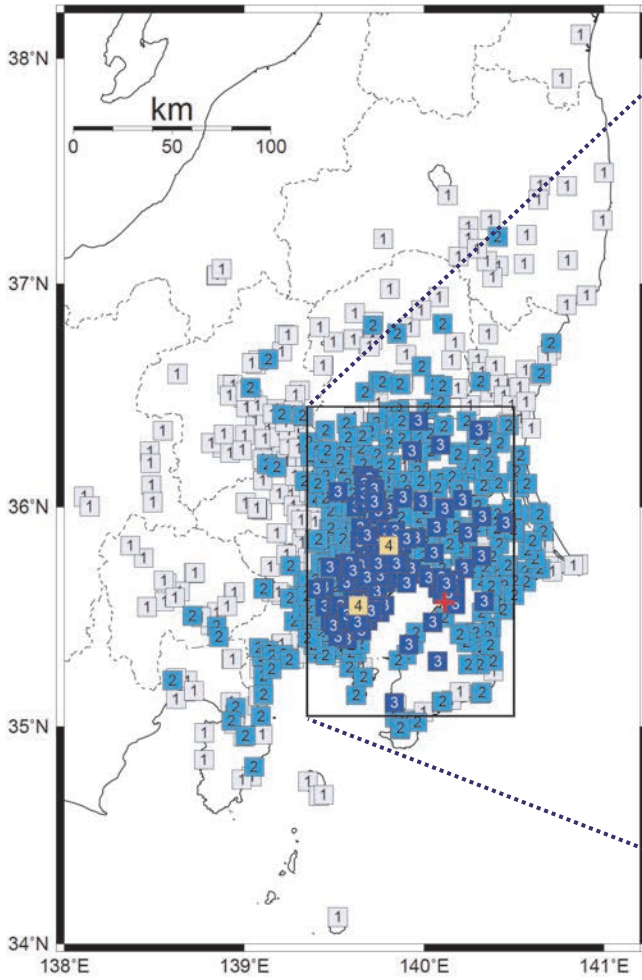
<上図の参考資料>



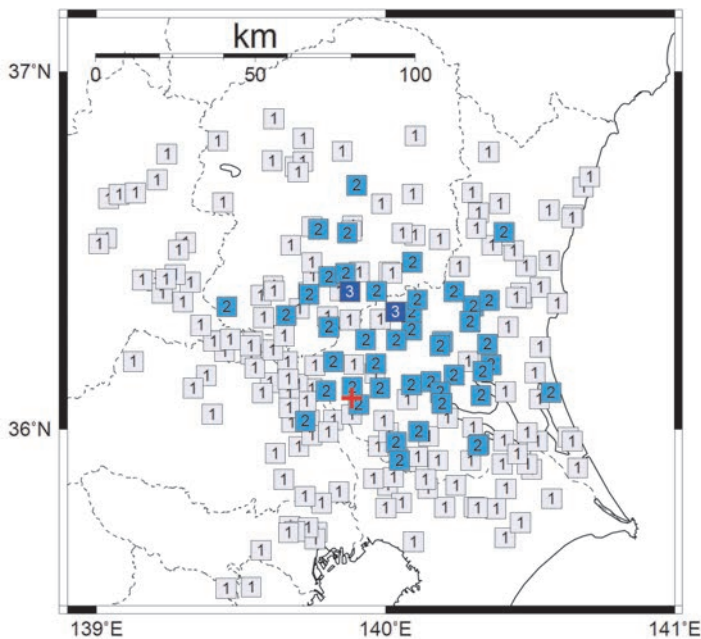
震度分布は震央を中心とした同心円状になることが多いが、この地震の場合、震央から離れたところでも東日本の太平洋側の地域ではよく揺れている(異常震域と呼ばれることがある)。
これは、この地震が日本列島の下に東側から沈みこんでいる海洋プレート(太平洋プレート)の深い場所で発生した地震であり、海洋プレート内では地震波が効率よく伝わるために起こる現象である。

図3-2 震度分布図(各図の左上の数字は表1、図2の番号に対応する。+印は震央を示す。)

5 5月13日08時35分 千葉県北西部
(M4.9、深さ72km、最大震度4)



6 5月13日10時33分 茨城県南部
(M4.0、深さ47km、最大震度3)



7 5月30日20時21分 釧路地方中南部
(M4.2、深さ62km、最大震度3)

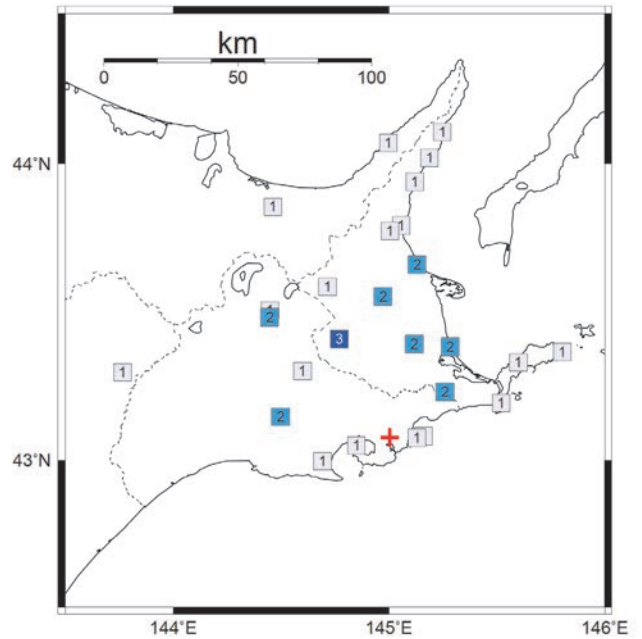


図3-3 震度分布図（各図の左上の数字は表1、図2の番号に対応する。+印は震央を示す。）